

# ICT を活用した NIE 探究学習の実践

## ー ICT 活用による情報の取捨選択に対する意識の検証ー

京都先端科学大学附属高等学校

### 1 問題意識

クラウド型新聞編集アプリ「ことまど」を使って新聞を制作する学習活動を通じて、ICT を活用することで適切に情報を集め、必要な情報にたどりつき、伝えたい情報を的確に表現できているか検証することにした。

### 2 研究のねらい

- ①書き手の価値判断を表す「見出し」に着目し、本文は同じでも 5W1H の取り入れ方を変えた「見出し」を作成し、どの要素を取り入れた「見出し」が読み手に伝わるのか検証する。
- ②ICT を取り入れることで、写真・本文は同じでも「見出し」を変えることで、読者の新聞に対する印象が変わるのか検証する。

### 3 研究の概要

- (1)ー2022 年度の高校 2 年古典 B の授業で『枕草子』『徒然草』の夏の風景が描写されている箇所を読解した。同じ時期に実施された校外学習と京都市内のフィールドワークの際に、京都の夏を実感させる写真を撮影した。これらの学習を踏まえて『枕草子』が書かれた平安時代と現代、『徒然草』が書かれた鎌倉時代と現代とをそれぞれ比較し、夏という季節の感じ取り方の相違点についてまとめ、新聞のコラムとして令和における夏の訪れをテーマに新聞を作成した。完成した 26 作品を比較すると、「香りで感じる夏の趣」というように的確に伝えたい内容が盛り込まれている「見出し」がある一方、「夏といえば!？」のようにあまりにも抽象的すぎて伝わらない「見出し」もあった。
- (2)ー(1)の実践を踏まえ、新聞の「見出し」に着目することにした。次は、研修旅行で訪問する富士山に関連付けて『更級日記』を読解した。研修旅行で見聞したことと、古典作品に関連付けて、改めて新聞づくりを行った。そして、写真と本文は同じものにして、5W1H の取り入れ方を変えた「見出し」をつけた新聞を用意することにした。まず、富士山に研修旅行に行った生徒（高校 2 年）に読んでもらい、「見出し」が一番良いと思ったものに投票してもらった。次に、研修旅行に行っていない生徒（高 1）に同じ新聞を読んでもらい、「見出し」が一番ふさわしいと思ったものに投票してもらった。そして、古典作品を読み現地へ行くという経験の有無によって、写真・本文は全く同じでも、「見出し」の伝わりやすさに違いがあるのか検証を行った。
- (3)ー5W1H の取り入れ方を変えた「見出し」とテキストマイニングによって検出されたワードクラウドと比較し、見出しに入れるべきキーワードについて考察した。

### 4 成果と展望

「見出し」のパターン作成（新聞作成アプリ「ことまど」）や検証に用いたテキストマイニングという ICT を活用した研究を通じて、新聞における「見出し」の意義とその効果を検証することができた。